事例No.	2810
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	安満の里　春日講

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

なんもなか小さな集落に育まれた大きな誇りが原動力に!
～棚田を生かした持続可能なふるさとづくりを目指す集落の取り組み～

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



なんもなか小さな集落に育まれた大きな誇りが原動力に!
～棚田を生かした持続可能なふるさとづくりを目指す集落の取り組み～

安満の里（やすまんのさと）　春日講（かすがこう）

DATA

事　例　名：安満の里　春日講
所　在　地：長崎県平戸市春日町166-1 ／
　　春日集落案内所「かたりな」
連　絡　先：TEL 0950-22-7020
ホームページ：http://kasugakou.web.fc2.com
　　https://www.facebook.com>kasugakou

取り組みの概要

平成22年2月に平戸市の春日集落が「国の重要文化的景観」に選定されたのをきっかけに平成23年4月に住民組織である「安満の里　春日講」が発足し、春日集落の全世帯が会員となって、棚田を生かしたまちづくりに取り組んできた。平成30年7月には、「平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）」として、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産に登録され、棚田とキリシタンの歴史を生かした持続可能なふるさとづくりを目指し、来訪者の受け入れや保全活動等に取り組み続けている。

評価された点

●空き家をリノベーションした案内所で地元住民による受け入れ対応のほか、棚田米の開発や販売を行い、収入もしっかりと確保できている点を評価。

●地域の景観が保全されるだけでなく、夢を忘れかけていた地域住民のプライドもいい方向に動き出しており、一つひとつの取り組みがうまく組み合わさって効果を上げている点で、他地域の参考にもなる。

●「潜伏キリシタン」と棚田を活かし、ここでしかできない独自の取り組みをしている点を評価。また、若者のフィールドワークによる地域間交流や世代間交流を通じてコミュニティが生まれ、住民が自主的にまちづくりに取り組んでいる点も評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　**2011年**

・平成22年2月に春日集落が「国の重要文化的景観」に選定されたのをきっかけに「安満の里 春日講」が発足。

2011年～

・ホームページやフェイスブックなどを通じて、日々の活動の様子や春日の棚田の魅力を発信。
・視察や取材への対応、シャトルバス受入れが増えはじめる。

棚田を生かしたまちづくりの活動を実施

・まちづくり勉強会やワークショップ。
・春日集落の棚田ウォーク。
・農業体験（棚田での田植え体験）。
・散策マップの作成。




2018年～

・平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録。構成資産のひとつ【平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）】。
・登録後、来訪者がさらに増加。視察や取材対応も増え、新聞やテレビなど多くのメディアに取りあげられている。

集落の拠点となる春日集落案内所「かたりな」の運営

・来訪者の受け入れ（世界遺産の説明やおもてなし等）。




2019年～

春日の棚田米を使った特産品開発・販売

・平戸春日米のかんころ餅。
・「Firando（フィランド）夢名酒」




2019年～

・平戸市や長崎県、大学、関係団体との連携。

平戸市との協働によるイベント実施

・棚田イルミネーション。
・スタンプラリー。



2019年～

県内大学生との交流・フィールドワークの活動の場



今後の展望

・「かたりな」を核とした小さくとも持続的な仕組みづくりで収入の多様化を目指し、交流を核に経済活動を含む取り組みを推進。

受賞者のコメント

10年以上にわたり取り組んできた活動が評価されたことは、とても名誉なことであり、集落のみんなが喜んでいるところです。
どこにでもあるような小さな集落ですが、先祖たちが信仰と共に守ってきた春日の景観を次の世代に繋げられるよう、また、春日集落の魅力を多くの人に知ってもらえるよう、この賞を励みに集落の住民と共にこれからも活動に取り組んでいきたいと思います。